

第6回羅先国際商品展示会

ERINA 調査研究部主任研究員 三村光弘

2016年8月8日～11日、羅先市先鋒地区にある羅先展示館で第6回羅先国際商品展示会が開催された。8日の朝に開幕式が行われた。その後一般入場が始まり、多くの羅先市民が参観と展示即売品の購入を目的に訪れた。

今回の展示会には北朝鮮から41の機関、企業所、団体(北朝鮮に設立された外資系企業を含む)が、中国から羅先経済貿易地帯中朝共同管理委員会を含む21の機関、企業が、ロシアおよび日本から各2つの企業、団体が、米国、ドイツ、イタリア、香港、英国から各1つの企業、団体が参加した。なお、設置者の不明なブースが1つあった(ブースの設置作業中であったため、確認できなかった)。

写真1 展示ブースの地図



(出所) 筆者撮影

今回の展示会の特徴は、昨年までと比べて、中国企業の参加数が大幅に減少し、地元企業や羅先市に投資している外国投資企業の参加が増加した点である。ロシア企業数は少ないが、羅先に投資しているロシア系企業の支援もあり、毎年継続的に参加が確認されている。

写真2 中朝共同管理委員会の展示



(出所) 筆者撮影

中国企業が減った代わりに、今年初めて中朝共同管理委員会が9つのブースが入る第1室を借り切って展示を行った。

一般市民の参観者は昨年とそれほど変わらず、市内の各機関、企業所の団体での参観もあれば、個人での参観もあった。中国の同様の商品展示会や見本市と同じく、ほとんどのブースで展示即売を行っていたので、買い物目的の参観者も多い。

写真3 展示品に見入る参観者たち



(出所) 筆者撮影

展示会の傍ら、市内や羅津港を参観した。市内では中国からの投資で外国人向けや国内向けの高層アパートが何棟か建設されていた。平壤市内のように高層ビルがどんどん建っていく状況ではないが、以前とは街の雰囲気の方が都会らしくなってきた気がした。2015年に金正恩朝鮮労働党委員長が2回にわたって羅先市を訪問したことと無関係ではないだろう。

写真4 建設中の高層アパート



(出所) 筆者撮影